

3. 社会貢献・連携活動の概要

社会貢献活動(公共事業、環境問題、研究成果還元等)、大学間、高大間、産官学間、地域社会等との連携活動の特長等を紹介します。

<地域連携・社会貢献活動等>

- ・学生全員が2年間に亘る必修科目として、「つくば市をキャンパス」にしながら社会参加活動を実践することで社会力育成を図るオフ・キャンパス・プログラム(OCP)を推進している。具体的には、情報・科学、国際、まちづくり、スポーツ、環境、福祉、社会教育、文化等の分野で活動する市民団体(行政、民間企業、NPO、教育機関、財団法人、他)で、学生が社会の一員として社会参加活動を行い、それにより社会の仕組みを実感し、幅広い人間関係を築くことを狙いとしている。現在、OCP受入協力団体は100近くに及ぶ。学内体制として、OCP推進委員会を教職員で組織すると共に、学生の視点からOCPの運営に関わるOCP学生スタッフを組織化している。
- ・なお、本プログラムは平成18年度、文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に採択された。例えばこのプログラムでは、2年生が必修で行う実践科目Bの活動で、つくば市内の観光施設のガイド、里山の環境調査、子供たちへの海外の料理教室など、国際理解教育などの活動を行ってきた。地域への貢献活動を専門の学習内容と結びつけ、学生本人の興味関心を伸ばすような活動を行ってきた。
- ・『公開講座』を実施し、大学近隣の地域社会の一般住民の方々へ教育・教養の場の提供を進めている。グローバル化の進行による、英語を中心とした外国語の習得意欲への充足に向け貢献している。また、コンピュータ社会への順応・適用に向けての情報教育、更に、歴史等の一般教養に類する講座も幅広く設け、地域社会の方々のスキルアップ、知的好奇心への要求に応えることに繋がっている。

令和元年度には以下の取組を実施した。

- ・ロボット特区であるつくば市主催のセグウェイ活用イベントや近隣地域イベントに教職員と学生が参加しセグウェイ体験会や、地域の防犯パトロール活動に協力した。
- ・デザインを通じて地域と連携した活動を行う組織として立ち上がったCDC(Community Design Center)は4年目を迎え、活動内容も高度化・広範になっており、地域交流の拠点としての重要性を増している。

<大学・高大間連携>

- ・いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムの県民を対象とした公開講座、「いばらきカレッジ」に本学から講師を1名派遣し、「テクノロジーの視点から考える いばらきの未来」について講演を実施した。
- ・茨城県国際交流協会の茨城県留学生親善大使に本学から10名が任命され、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校および生涯学習の場で、母国の文化紹介等を行う「ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業」を中心に活躍している。
- ・高大間においては、茨城県立高等学校生徒を対象とした大学の授業公開等に係る協定に基づき、茨城県立高等学校生徒が本学の授業を受講できる制度を継続するとともに、高校生のための公開講座を開設している。また、茨城県立筑波高校と高大連携協定より、平成31年度の高等学校入学生を対象とした、令和2年度から実際の授業を開始する高大連携プログラムの準備を進めている。また、夏休みの自習の場として地域の高校生に附属図書館を開放。石下紫峰高等学校からの要請に応え、教員を派遣し授業に協力している。さらに、平成25年度からは笠間高等学校、平成30年度からは下妻第二高等学校にも講師を派遣している。

<産官学連携>

- ・医療法人啓仁会、帝京科学大学、拓殖大学、帝京短期大学、社会福祉法人栄光会と、共同研究「ロボットのリハビリテーションへの応用」として、ロボット・セラピー運用方法の確立と新方式の開発を平成29年度に続き継続して行っている。
- ・つくばからの文化発信と次世代の才能の発掘を目的として、民(つくば市民代表)産(株式会社ワコム等)官(つくば市)学(本学)の連携により、つくばショートムービーコンペティション2020を開催した。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、2月の上映会・表彰式のイベントを中止となったが、全国から寄せられた167本の作品のうち、1次審査を経て選ばれた11作品の中からグランプリや筑波学院大学長賞、つくば市長賞が決定しインターネット公表とした。民産官学連携での実施は、全国的にも珍しい取り組みである。回を増すごとに、作品レベルが高くなってきている。